

和らぎ菜園

教科・場面

生活

授業・実践のねらい

土に触れ、種・苗から大きく成長し、それがやがて自分たちの食物になることを知る。

対象の児童・生徒

小学部 3名
 中学部 2名
 高等部 6名
 すくよか 4名

教材・教具

・屋上 畑
 ベランダ プランター
 ・スコップ、育苗ケース

工夫したところ

・屋上に行けない生徒にプランターを用意して教室のベランダで野菜を育てた。
 ・屋上の畑からのリモート授業ができた。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ・事前学習：野菜を見て育てる。野菜に馴染む。自分の名札スティック作り。
- ・植ええ：育苗ポットにスコップで土を入れ、種を植える。
- ・観察：発芽の様子を観察する。ポットから畑への植え替え。
- ・屋上の畑で野菜が成長する様子を写真や動画などで見る。
 （すくよかにはリモート授業で本人の掛け声で先生が収穫し、後日それを届けた。）
- ・屋上に行ける生徒が収穫し、授業で全員が見る。
- ・収穫した野菜を使った野菜スタンプで暑中見舞いはがきを作り、家族に送る。
- ・収穫した野菜を使った食事を和らぎ苑の調理師さんが作ってくださり、お昼の給食に出してもらった。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・野菜の名前や色、においや感触を覚えることができた。
- ・小さな種が土と太陽と水で大きな野菜になるのを感じた。
- ・作った野菜を使った料理が苑の食事として提供されたことで食べることができ、職員と生徒との話題ができた。
- ・栄養士、調理スタッフ、苑の職員、学校、4者の絆ができた。
- ・暑中見舞い作りで野菜スタンプを楽しみながら家族への感謝を伝えることができた。
- ・継続することで野菜の名前が定着した。
- ・すくよかの生徒も一緒に楽しめた。